

やっちく瓦版



六代目藩主

吉田救仁院守隆司

二十一年目に向けて「いざ、出陣！」

昨年、一つの節目となる二〇周年を迎えた「やっちく松山藩」も、いよいよ二十一年目に突入しました。そういつた新たな門出となる今年には、藩主交替の年ということでも、六代目藩主の大役を仰せつかることに相成りました。「吉田救仁院守 隆司」と申します。

二〇年の永きに渡り、諸先輩方が作り上げてきた「やっちく松山藩」の「藩主」という役割の重大さ、そしてその責任の重さに、正直に申しますと、かなりのプレッシャーを感じているところです。しかしながら、城代・筆頭家老をはじめ、周りにすばらしい人材が数多くいるということもあり、その方々の助けをもらいながら、何とか次の七代目へ、そして次の世代へと繋いでいけたらとの想いで、頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願致します。



「やっちく松山藩」とは藩士の方々はもちろんだ地域住民の皆様方、そして志布志市民の皆様方のご理解・ご協力があったからこそこれまで続けてこれたことは、周知の事実であります。私が六代目藩主となりまして今年度以降も、今までと変わることなく、ご理解・ご協力を引き続きお願いいたします。よう重ねてお願いして挨拶に代えさせていただきます。

さて、私の好きな「やっちく流儀」の一つに「楽しくなければ「やっちく」でない」というものがあります。この「楽しさ」こそ私がこれまで頑張ってきた、そしてこれからも頑張ろうと思える原点であります。この「楽しさ」にはいろいろな意味があると思っております。たとえば、人を知りそして知り合った多くの人達との交流を楽しむ。一つの事を苦勞を重ねながらや

り遂げ、その達成感を「楽しむ」。普段の生活ではなかなかやることのない作業そのものを「楽しむ」。等々、考えればきりがありません。人それぞれがポジティブな考えを持ち、「楽しい」と思えることが出来るか出来ないかで、「金にならない難儀」と感じるか「金のかからない崇高な趣味」と感じるか、変わることでしよう。このような柔軟な考えを持つことで、一人一人が元氣になれると思えますし、個々が元氣になることで地域が元氣になり、そして志布志市全体が元氣になって行く。すなわち、「地域活性化」・「元氣ある町づくり」へとつながっていくのではないかと、誠に勝手ながら、そう考えております。

最後に申し上げますが、「やっちく松山藩」とは藩士の方々はもちろん地域住民の皆様方、そして志布志市民の皆様方のご理解・ご協力があったからこそこれまで続けてこれたことは、周知の事実であります。私が六代目藩主となりまして今年度以降も、今までと変わることなく、ご理解・ご協力を引き続きお願いいたします。よう重ねてお願いして挨拶に代えさせていただきます。



前領主 上村 環

やっちく武者

やっちく松山藩の看板は松山城と髭の武者姿である。髭といえば、小学校の校長室に掲げている歴代の校長先生方の写真を出すが、威圧感があつて寄り付きがたいような印象がある。そうしたことから第十七回やっちく祭りの実行委員会で五代目藩主の坂元正人氏から「環さんも髭をはやししてくれないか」と言われたとき、最初は躊躇したが藩主に言われると断れない。生やし始めてはみたものの、最初の頃は無精ひげのようでの視線が随分気になった。そこでいろいろな場所や人に会ったときは、聞かれる前に自分から先に事の次第を説明することにした。だからやっちく祭りではひげを生やすことは、本番当日までやっちくの宣伝マンの役目も果たすことになる。

そして迎えた秋の陣まつり。早朝からよるまで身まとい、髭のやっちく武者姿になると祭りの主役になったように気分は一層高揚する。祭りやイベントはそれに心身ともに同化してこそ心から楽しめるというものだし、祭りへの愛着はいつそう深まる。これまで縁あって松山のやっちく祭りには髭の武者として参加した人は、一生の思い出になっていることはまちがいない。全国で村おこしブームが始まって約二十年。松山町の若い有志たちが村おこしの企画として始めたやっちく松山藩が、ここまで生き長く続きそして発展を続ける秘訣のひとつは、藩主を四年ごとの交代制として、組織の活性化を図ってきたことにあると思う。本年度、第六代目となる吉田新藩主が誕生しました。これまで先輩方が築いてきた土台の上に、さらに新しい企画にも積極的にチャレンジしながら、力強さと魅力あふれるやっちく祭りが今年も開催されるのを楽しみにしています。



市議会議長 谷口 松生

お家安泰

大隅の国やっちく松山藩も開藩二十二年目を迎え藩主も六代目となった。旧町の戦国時代から市発足、平和の時代となり四年目となる。

松山藩では見事な藩主交代がなされ、ますます充実した時代になると期待している。これからも市井の民

鹿兒島県志布志市松山町
発行 大隅の國
やっちく松山藩
やっちく瓦版所
TEL 099 (487) 2111
第8号 平成21年9月

第21回 秋の陣まつり 11/7±・8日 いざ出陣!!



城代 山口 健吾
歴史と伝統を誇るやっちく松山藩の城代という大役を仰せつかる事となり、身の引き締まる思いでございます。地域おこしの原点は人づくりの信念のもと一致団結して、やっちく松山藩を盛り上げてまいりたいと思ひます。



筆頭家老 川上 渉
五代に渡る藩主の歴史を超えて、二十一年目の新たな時を前に新体制の中、筆頭家老という大役を仰せ付かり身の引き締まる思いです。常に「もてなしと手づくり」の心を忘れずに進化して来たやっちくが、これからも志の内外問わず精神的向上と和をもたらす事に精進して参りたいと思ひます。



目付 末原 和幸
開藩20周年記念という節目を迎えた昨年度に、7代目となる目付(事務局)職を仰せつかりました。至らない点が多い私ですが、支えてくださる皆さまのご協力でカバーいただいております、感謝感謝の日々です。これからもよろしくお願ひいたします!



尾野見旗本 中西 浩二
私にとって「やっちく」は、ふるさと松山そのものです。約二十年の年月で住民や地域にしっかりと根を下ろし、教育・産業・文化までも変えたのかもしれない。しかし、町村合併により転機を迎えています。それでも、このふるさとを子供たちに残してあげたいと切に願っています。



泰野旗本 金子 純吉
芋焼酎が大好きで、無口な私が泰野の旗本を引き受けてしまいました。おそらく、新役員の中で一番の長老だと思いますがやっちく魂を引き継ぐ「心」は、若者には負けません。地域の仲間と声を掛けながら新藩主を支えていきたいと思っております。



新橋旗本 脇田 祐二
町おこしから始まった「やっちく」も、21年目を迎えました。今まで、地域の皆さんの力で発展させてきた「やっちく」を、後世にしっかりと伝えられるよう皆さんと一緒に頑張っていきたいと思ひます。

第8回KKBふるさとCM大賞

11月23日月
放送予定



平成14年にKKB開局20周年記念に企画された「ふるさとCM大賞」、やっちく松山藩として、第1回目で8本目の収録となりました。

今年は編集作業に時間をかけ良い作品を作ろうと、いつもより一ヶ月ほど早い7月の撮影となりました。CM大賞の撮影は毎年8月の撮影であるため、暑く大変なイメージがありました。今回も時期はありましたが、川での撮影が大半であった為、鎧を着て出演する私達にとっては最高の場所でした。でも蚊がかんだ！。今回はすべてにおいて「手作り」という言葉がふさわしい作品です。

私が身につけていた衣装、鎧、そしてなつなんと「かつら」までも手作りで作っちゃいました。（結構リアルです。商売できます！）製作に携わった方々有難うございます。

撮影においては、家庭用のビデオカメラ3台で納得いくまで何度も撮影するというこだわりぶりでした。がしかしその中でも取り直しの効かない、一発勝負のシーンもありました。

小兵が届け物をする途中、倒木につまずき、川に倒れるが届け物は濡らさず守るというシーン、勿論失敗は許されません。監督自らスタント役で何回も倒れ、カメラの位置、倒れる位置を確認し、本番です。プレッシャーにはものすごく弱い、ノミの心臓の私でしたが、監督の想いと、体を張ったハリハールの甲斐もあって、一発OKをもらい無事撮影を終えました。

今回の作品、撮影スタッフから出演者まで、やっちく藩士で作り上げたこの作品、みんなの想いを込めて山本監督に届けたい……。

新橋地区ふるさとづくり委員会
去る8月8日(土)雨の中、旧国鉄松山駅前、石倉の倉庫にて、1日だけのピアホールを開催致しました。当日はあいにくの雨の中でしたが、100名余りの来場者で会場にはぎわいました。

今後においても、石倉を利用し地域の情報発信の拠点として活用してまいりたいと考えております。

「石倉ピアホール」

「ひまわりまつり」
尾野見地区ふるさとづくり委員会
サンサンと輝く太陽の様に、ひまわりが満開となったサンサン広場に今年も「ひまわりまつり」が開催されました。

このまつりは、尾野見地区ふるさとづくり委員会と市衛生自治会の共催で、当日は、小学生や保育園児、一般の方々等約100人の参加者で賑わいました。子ども達は、自分の背丈より大きいひまわり畑の中を汗をかきかき散策し、冷たい力キ氷をいしそうにほおばっていました。

その後、満開のひまわりをバックに市環境政策室の西川室長による環境学習会も行われ、このすばらしい環境の中で生活できることの有難さや、大切な環境について考える良い機会となりました。

このサンサン広場は、平成17年に開墾されて以来、ひまわりやコスモス等の季節の花を植え地元だけでなく地区外からの見物人を楽しませるほか、そばの収穫をし、そば打ち体験も行っています。



平成14年にKKB開局20周年記念に企画された「ふるさとCM大賞」、やっちく松山藩として、第1回目で8本目の収録となりました。

今年は編集作業に時間をかけ良い作品を作ろうと、いつもより一ヶ月ほど早い7月の撮影となりました。CM大賞の撮影は毎年8月の撮影であるため、暑く大変なイメージがありました。今回も時期はありましたが、川での撮影が大半であった為、鎧を着て出演する私達にとっては最高の場所でした。でも蚊がかんだ！。今回はすべてにおいて「手作り」という言葉がふさわしい作品です。

私が身につけていた衣装、鎧、そしてなつなんと「かつら」までも手作りで作っちゃいました。（結構リアルです。商売できます！）製作に携わった方々有難うございます。

撮影においては、家庭用のビデオカメラ3台で納得いくまで何度も撮影するというこだわりぶりでした。がしかしその中でも取り直しの効かない、一発勝負のシーンもありました。

小兵が届け物をする途中、倒木につまずき、川に倒れるが届け物は濡らさず守るというシーン、勿論失敗は許されません。監督自らスタント役で何回も倒れ、カメラの位置、倒れる位置を確認し、本番です。プレッシャーにはものすごく弱い、ノミの心臓の私でしたが、監督の想いと、体を張ったハリハールの甲斐もあって、一発OKをもらい無事撮影を終えました。

今回の作品、撮影スタッフから出演者まで、やっちく藩士で作り上げたこの作品、みんなの想いを込めて山本監督に届けたい……。

地域おこし事業



ひまわりサンサン広場の様子

その後、満開のひまわりをバックに市環境政策室の西川室長による環境学習会も行われ、このすばらしい環境の中で生活できることの有難さや、大切な環境について考える良い機会となりました。

このサンサン広場は、平成17年に開墾されて以来、ひまわりやコスモス等の季節の花を植え地元だけでなく地区外からの見物人を楽しませるほか、そばの収穫をし、そば打ち体験も行っています。

「石倉ピアホール」
新橋地区ふるさとづくり委員会
去る8月8日(土)雨の中、旧国鉄松山駅前、石倉の倉庫にて、1日だけのピアホールを開催致しました。当日はあいにくの雨の中でしたが、100名余りの来場者で会場にはぎわいました。

今後においても、石倉を利用し地域の情報発信の拠点として活用してまいりたいと考えております。

「ひまわりまつり」
尾野見地区ふるさとづくり委員会
サンサンと輝く太陽の様に、ひまわりが満開となったサンサン広場に今年も「ひまわりまつり」が開催されました。

このまつりは、尾野見地区ふるさとづくり委員会と市衛生自治会の共催で、当日は、小学生や保育園児、一般の方々等約100人の参加者で賑わいました。子ども達は、自分の背丈より大きいひまわり畑の中を汗をかきかき散策し、冷たい力キ氷をいしそうにほおばっていました。



石倉ピアホールのもよう



7月27日(月)志布志みなとまつりに参加しました。屋台村で出展を行いました。前日の雨の影響で延期になりました、どうなることか心配ではありませんでしたが、イカリリングからあげ・ジュース等売り上げも好調で全て完売となり大盛況でした。

花火のほうも場所が海岸沿いと絶好の場所で見ることが出来ました。メインの花火が上がるたびに会場内拍手や歓声など大いに盛り上がりつつありました。順延の影響もなく予想以上の大盛況となり終了することが出来ました。

みなと祭

7月27日(月)志布志みなとまつりに参加しました。屋台村で出展を行いました。前日の雨の影響で延期になりました、どうなることか心配ではありませんでしたが、イカリリングからあげ・ジュース等売り上げも好調で全て完売となり大盛況でした。

やっちく藩士いざ出陣!



名前 内野々 弥生
誕生日 1983.8.22
しし座0型
所属 志布志市役所保健課
仕事 包括支援センター

地域の行事に参加できることに、幸せを感じている今日この頃です。



第21回秋の陣まつり ポスターイメージ

今後の予定

- 9月29日 北九州市 黒崎井筒屋鹿兒島物産展 (初日セレモニー参加)
- 9月30日 NHK福岡 やっちく松山藩出演
- 10月2日 KKBふるさとCM大賞審査
- 10月17日 むらおこし実行委員会&出陣式
- 10月31日 からくり忍者屋敷棟上
- 11月1日 松山城上棟式
- 11月7日 やっちく旗剣道大会
- 11月8日 第21回秋の陣まつり前夜祭
- 11月8日 第21回秋の陣まつり 本祭

編集後記

秋の深みも増し、やっちく松山藩「秋の陣まつり」の足音が近づく昨今、第8号「やっちく瓦版」を発行することができました。

編集員の顔ぶれも一新し、やっちく松山藩の活動をあますことなくお伝えしていきますので、宜しくお願い致します。

- やっちく瓦版編集所
- 編集長 渡邊 春宣
 - 副編集長 阿瀬知 匡
 - 編集員 大野・末原・山下
 - 増田・内野々
 - 坂本正人
 - 吉田隆司
 - 野村広志
 - 顧問編集員



平成21年度より、新体制が発足し、役員一人ひとりから決意表明もありました。また新たな展開を迎えるやっちく松山藩に、ご期待ください。

大隅の國やっちく松山藩の総会が、平成21年6月26日に開催されました。約100名が出席し、昨年度に行われた秋の陣まつりや、その他活動報告、決算、来年度予算の承認など多岐に渡り行われました。

また、この総会に先立ち、株式会社能口工業の能口登社長に対し、やっちく松山藩より感謝状を贈らせていただきました。能口氏の深いご理解、ご協力のもと、倉庫や敷地を利用していただき、感謝の意をお伝えしました。

やっちく松山藩 総会を開催

大隅の國やっちく松山藩の総会が、平成21年6月26日に開催されました。約100名が出席し、昨年度に行われた秋の陣まつりや、その他活動報告、決算、来年度予算の承認など多岐に渡り行われました。